

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1490600077
法人名	特定非営利活動法人うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
訪問調査日	平成28年10月1日
評価確定日	平成28年11月11日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600077	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人うえん会			
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館			
所在地	(240-0035) 横浜市保土ヶ谷区今井町892-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果 市町村受理日	平成28年11月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立てて、ご利用者、ご家族、自治会、近隣の皆様、ボランティア、職員が一緒になって楽しいひと時を過ごしている。日常的な外出には社会的リハビリとしての目的を持たせ、いきいきと日常生活を送っていただくための支援として実践している。
- ご家族と、地域の皆様のご協力により地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援に努めている。
- 管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したりホーム内外の研修に励んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年10月1日	評価機関 評価決定日	平成28年11月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①この事業所の経営は特定非営利活動法人うえん会です。同法人は保土ヶ谷区今井町でここ「グループホーム銀の鈴2号館」と「グループホーム銀の鈴」を運営しており、今年の8月には「訪問看護ステーション銀の鈴」を開設し地域に根ざした介護事業を展開しています。今年の8月に開設した訪問介護ステーションは「銀の鈴2号館」で管理者を努めていた方が所長に就任したということもあり、事業内容は異なっても目指している志は同じであり、事業所間の連携もスムーズに図られています。法人の名前になっている「うえん」の由来は有縁からきており、地域、利用者、家族、職員の方々に支えられながら運営出来るようにとの想いからつけられています。この事業所はJR横須賀線「東戸塚または保土ヶ谷駅」からバスに乗り「環2今井または根下」下車し、徒歩15分圏内の所に位置しています。事業所は少し高台の場所にあり、目の前には山や畑もあり四季折々の自然が望め、夏にはみなとみらいの花火が眺められる静かな環境下にあります。

②法人の理念に「地域の一員として生活出来る介護支援・個の尊重」を掲げています。理事長兼管理者の思いとして「心と心で接するケア」に重きを置き、利用者だけでなく、利用者家族へのきめ細やかな配慮やケアが行き届いたサービスを提供しています。また、ケアする方が強い、ケアされる側が弱いと言った優劣をつけないをモットーとし、ミーティング等で職員に話し周知し、一人ひとりのその人らしさに合わせたケアを実践しています。職員の研修については、横浜市指定の項目に沿って作成した独自のマニュアル毎に実施しており、職員自身の経験や考えなど意見を出し合い、話し合うことで知識・情報を共有しバラツキのないケアと意思統一を図っています。

③管理者は今年の8月から着就任したばかりですが、以前から職員として「銀の鈴2号館」で勤務しており、これまでの管理者の取り組み等も熟知しているため、前管理者の取り組みを継続していくことを目標として掲げています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員として生活できる介護支援」を法人の理念の一つとして掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。管理者と職員はその理念を共有し、実践に繋げることができるようミーティング(計画作成担当者会議)の度に話し合い、振り返ることで日々のサービス提供に反映している。さまざまな行事開催を通して、家族・友人・地域の方々との交流を図っている。	法人の理念に「地域の一員として生活出来る介護支援・個の尊重」を掲げています。理事長兼管理者は「心と心で接するケア」に重きを置き、ミーティング等で職員に話し周知し、一人ひとりのその人らしさに合わせたケアを実践しています。また、利用者だけでなく、利用者家族へのきめ細やかな配慮やケアが行き届いたサービスを提供しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の方々との交流を図り、双方向の関係を作っている。 今井町自治会の主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災訓練)には積極的に参加している。ホーム主催の行事には、近隣の皆様をご招待している。	自治会には特別会員として加入し、地域行事(七夕、盆踊り、敬老会等)に参加したり、事業所の納涼祭は近くにある「銀の鈴」と合同で開催し、地域の方を招待して交流を図っています。また、自治会の防災訓練にも参加可能な利用者と共に参加し、災害時の協体制や役割などについても確認しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と職員が、自治会の行事や清掃活動に積極的に出かけて行くことで銀の鈴2号館の皆様のことを理解してくれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回実施している運営推進会議では、銀の鈴2号館における活動の実際や、今後の取組みなどを報告・相談し、検討している。地区センター、自治会、地域資源の情報をアドバイスとして受け取り、サービスに活かしている。事業所の運営に関することへの話し合いも行われ、そこでの意見を活かしながら実践に取り組んできた。	年6回、家族、民生員、地域包括センター職員、職員、事務局の参加で開催しています。活動報告やサービス内容等の取り組みについて話しています。訪問看護ステーションの立ち上げ時には、サービス内容についての説明、開設に伴い空き場所の情報を提供いただきました。訪問看護ステーションの内覧会の呼びかけなど情報交換の場としても活用しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の健康づくり係、高齢・障害支援課に行く機会を作り相談や活動の報告を行っている。高齢・障害支援課主催の研修会に積極的に参加するようにしている。8月29日には「地域の医療と介護を考える会」に参加した。行政によるサービス(インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者へのおむつの給付など)にかかる手続きを通じて連絡の機会がある。市へは、事故報告書の提出の際に報告や相談、指導を得てサービスに活かすよう取り組んでいる。	区の担当者とは、生活保護の受け入れも持っている関係で必要に応じて連絡を取り合い協力関係を築いています。保土ヶ谷区医療介護連携研修会の参加も含め、高齢・障害支援課の主催の研修会にも積極的に参加しています。また行政によるサービス(インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者への紙おむつの給付、理美容サービス券の申請等)にかかる手続きを通じて連絡を取り合い、利用者が居心地よく生活できるように取り組んでいます。市へは、事故報告書等を含む必要書類提出の際に報告や相談、指導を得てサービスに活かすよう取り組んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内に掲示し、研修を行うことで管理者及び全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。生命の擁護のためにやむを得ず一時的に拘束が必要と判断された場合は、家族と十分に話し合う場を設け「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、理解と同意を得た上で職員への正しい理解と認識に努めている。玄関の施錠については家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）。また管理者は施錠を身体拘束の一種ととらえている。裏庭に面する勝手口には美しい音色のドアベルを設置。開閉時には音で気が付くようにし解放感を保ちつつも事故防止に配慮できるように工夫。10月には掃出し窓に両手摺の付いたステップ台（段差解消踏み台）を設置をした。少しずつ足腰の筋力が低下しても今まで通り庭に出て、家事や畑仕事などを安全に継続・達成できるように工夫した。	身体拘束の定義を事業所内に掲示し、横浜市指定の項目に沿って作成した独自のマニュアル毎に実施しています。職員自身の経験や考えなど意見を出し合い、話し合うことで知識・情報を共有し身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。生命の擁護の為に止むを得ず一時的に拘束が必要と判断した場合は、家族と十分に話し合う場を設け「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、理解と同意を得た上で早期解決に向けて取り組む体制を整えています。玄関の施錠については家族会からの申し出により施錠していますが、裏面に面する勝手口は施錠ではなくドアベルを設置し、開放感を保ちつつ事故防止に努めています。掃出し窓に両手摺の付いたステップ台（段差解消踏み台）を設置し、少しずつ足腰の筋力が低下しても今まで通り庭に出て、家事や畑仕事などを安全に継続出来るように改善しました。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学ぶために職員研修の機会をもっている（高齢者虐待防止法第2条3項,4項）。日本認知症GH協会からの虐待事例の情報を受けた時や人権週間にはホーム内研修を開催し管理者と全職員で話し合っ振り返り、学びの機会とした。利用者が日常的に何でも話しやすい環境づくりに努めている。また職員のストレス解消にも配慮し、ミーティングの際あるいは日常的に意見や思いを表出できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士の資格を持つ職員がいることでいつでも権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持つことができる。研修の場も提供している。家族から申し出があった時には、成年後見人制度についての話し合いの機会を設けることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約に関する説明と納得が得られるよう、運営規定・契約書・重要事項の説明をしつつ、家族等の不安や疑問点を尋ねている。入居の際には再度意思の確認をすることで、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見・要望は、日常的に職員に表せるような関係づくりに配慮し運営に反映させている。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し暮らしの様子を伝えるなかで意見や要望を表せるように努め、意向はその言葉のまま記録して共有できるようにしている。家族会や運営推進会議にて、運営についての意見や苦情を述べる機会を作り、また「意見箱」にて無記名で受け付けている。外部の苦情受付窓口の存在を玄関に提示。法人内、ホーム内の相談窓口も出来るだけ多く作ることで、要望に沿った窓口を選択できるよう努めている。相談・苦情には、記録をし迅速に対応して運営に反映させている。	家族からの意見や要望については、日頃の面会時や運営推進会議、年2回の家族会などで意見や要望を表出する機会を設けています。家族の来訪時には個人記録、看護記録等も開示しながら日々の暮らしの様子を伝えることで意見や要望が表出できるように努めています。また、意見箱の設置や外部の苦情相談窓口、法人内、事業所内の相談窓口を掲示することで、意見や要望が言いやすい環境作りに努めています。	今後の継続
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設けるため、ミーティングを適宜開催。また職員から主体的にミーティングが計画されてきている。定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を十分に聞くことにより職員の働く意欲の向上、さらには介護の質の確保につながるよう努めている。今年度は、年末年始の体制については全体会議を3回開催して個別に意見を聞いた。報告や相談は24時間いつでも受け取る体制をとっている。	業務に関する職員の意見や提案については、適宜ミーティングを開催し話を聴く機会を設けています。また、管理者と複数の役職員が定期的に運営に関する会議を開催し、運営に関する意見や提案を聴くことで職員の意欲、ケアの質の向上に繋がっています。夜勤や遅番職員は、勤務終了後に施設長に電話で業務報告を行うことを徹底し、相談、意見や要望の汲み取りに努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は職員個々の勤務状況を把握できるようにしており職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。相談がある時はいつでも連絡が付くようにしている。管理者は忌引き等のやむを得ない勤怠に対しては、現場に欠員をつくらないように職員配置に全力で努めている。休憩室にはマッサージ機、コーヒー、ポットを設置して一息つける環境の整備を行っている。</p>			
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格試験対策の勉強会をホーム内でも開催するなど、働きながら資格を取得できる機会の確保に努めている。現場で活躍している職員一人ひとりが実践と理論を結び付けた介護を行うことができるよう研修・勉強することが大切であると考えている。年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は時間外手当がつき、休日には休日手当が支給される。管理者は日常の中で職員と介護技術を一緒に見なおしアドバイスをできるように現場に出る時間を作るように努めている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流を大切にしている。相互訪問等の活動を通じて情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度は、見学研修（職員相互研修）を実施。管理者は保土ヶ谷区の高齢・障害支援課主催の研修などに参加。他のグループホームの管理者と交流をしている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困りごと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。午後のお茶の時間帯に面談を実施することで、くつろげる雰囲気作りに配慮し本人が気持ちを表現しやすいように工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内を見学していただくことで家族自身がホーム内の雰囲気を実感していただけるよう配慮している。家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら関係づくりができるよう努めている。家族会の開催や行事やお楽しみ会への参加を通じて、家族同士が話し合える機会を持つことができるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点より状況や意向を聴き把握することで課題の抽出を実施している。健康上の課題、経済的な課題など多様な生活上の課題と一緒に話し合う中で「その時」必要としている支援を見極めて他のサービス利用も含めた対応が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にとって利用者は人生の先輩であり、教わることが多々ある。利用者も職員も皆が毎日の暮らしの中で力を発揮して協力し合うことで、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、職員は家族と日常的な報告や相談を通してよく話し合い状況を共有できるよう努め、家族と協力関係を築いている。利用者と家族のきずなを尊重できるよう家族の繋がりを大切に考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が地域の中で自分らしく暮らせるように、馴染みの人との面会、外出、外泊、通信に制限を設けてはいない。例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなど。ご家族や地域の方々と協力し利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努め、銀の鈴2号館での暮らしに安心を得られるように支援している。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリがつき不安が解消されるよう努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた交友関係や地域との馴染みの関係が途切れないよう、遠縁や友人の面会、帰省、外出や外泊、行事参加の制限を設けないことでこれまでの関係を継続出来るように支援しています。年末年始の帰宅については心待ちにしている方もいるので、家族と話し合った後に外泊する方もいます。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリがつき、利用者の不安が解消されるよう努めています。	今後の継続
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関われる雰囲気を大切にしている。職員のさりげない気遣いで一人ひとりが孤立しない支援に努めている。一緒に家事全般をするなかで連帯感や、お互いへの感謝の気持ちが生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族や本人との関係を大切にしている。家族との連絡・相談支援も必要に応じて行っている。行事への参加もしていただいている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常に利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。日々の暮らしの中でのことばや表情を汲み取っている。そのことを記録し会議によって職員は情報を共有している。ケアプランを立案する前には家族との面談によって思いを聴くことで、利用者・家族の暮らしへの要望・意向を受けとりいつでも本人本位になるように検討している。	職員一人ひとりが、日頃から日常生活のなかで利用者の思い・希望・意向の把握に努め、利用者一人ひとりの生活リズムを崩さないよう意向に沿った支援を心がけています。日々の暮らしの中で聞かれた言葉や表情等からも汲み取りに努め、職員間で情報共有しながら、些細なことでも実現に繋げています。介護計画を立案する際は職員の日頃の観察記録だけでなく、家族と面談の機会を設けて直接要望や意向を聞き、本人本位の意向に沿ったケアが出来るように検討しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や暮らし方、生活環境を聞き取り、これまでの経過や暮らしの把握に努めている。個別の基本情報とアセスメント表を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテへの記録、必要時には焦点をあてて情報を集めて記録することで心身の状態についての現状把握に努めている。今までの暮らしで培ってきた力を発揮できて達成感や居心地の良さを確保できるためにも現状と変化を捉えることで個別性の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、訪問医療の医師、看護師職員、介護職員ら、本人にかかわる人たちが、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。利用者や家族の意向・要望を受け取って、本人らしく暮らせるようにチームで取り組んでいる。介護計画に基づいて実践された支援の経過や結果は日々の記録に残し、チームで共有できるようにしている。	家族、医療関係者、職員も含め関わる人達が、利用者一人ひとりがより良く暮らしていけるように課題とケアについて話し合い、意見やアイデアを纏めて現状に即した介護計画を作成しています。日頃の生活の様子を細かく観察した情報と、第三者の意見も交えながらモニタリングを行っています。意向とニーズ別の物と考え、総合的に考えていくようにしています。介護計画に基づいて実践された支援の経過や結果は全職員で共有し、現状の介護計画とズレが生じないように努めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートから実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉士、保健師の資格を有する職員が在籍しているため、本人や家族の状況やその時々生まれる個別のニーズに対応ができるように努めている。協力医療機関、訪問看護ステーションや薬局などと相談・連絡を行うことで、必要な医療へ結び付けられるよう努めている。また福祉・障害に関する相談支援などに対応できるようにも取り組んでいる。必要時には地域包括支援センター、区役所、市役所などの関係機関とともに取り組むように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お楽しみ会・行事を実施する際には地区センター、自治会などから備品や会場、駐車場を借用している。社会福祉協議会から車椅子を借りて利用者が家族と外泊するなど、社会資源を把握し活用することで安全で豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。大型バスでディズニーランドに出かけた時には自治会の敷地を借りて安全にバスに乗り込むことが出来た。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望によって馴染みの受診先での医療を受けることができる。その場合は家族を介して情報交換を確実にしている。ホームでは、月2回の内科一般、週1回の歯科医の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に行われるよう支援している。また医師及び医療機関と本人及び家族との間の橋渡しとしての支援も行っている。週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。	入居時に希望を伺い、希望に応じて従来のかかりつけ医での受診を受けられるように支援しています。従来のかかりつけ医での受診を継続される場合は、家族を介して主治医との情報交換を確実にしています。事業所では月2回の内科の往診、週1回歯科医の定期往診があり、適切な医療を受けられる体制を整えています。また、医療面に対する家族の不安を取り除く為、医療機関や医師と家族の橋渡しとしての支援も行っています。	今後の継続
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が月に4回健康管理を行うことで利用者の体調の把握をしている。そして日常の関わりの中でケア方法や観察方法を職員にアドバイスしている。健康管理記録は家族に定期的に発送し報告している。介護職員は個々の利用者の情報や気づきを日常的に看護職員と共有することで適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員にとって利用者は人生の先輩であり、教わることが多々ある。利用者も職員も皆が毎日の暮らしの中で力を発揮して協力し合うことで、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いていけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。法人で訪問看護ステーションを立ち上げたことでより地域と密着し、チームで支援に取り組むことができるようになった。医師により終末期との診断があれば利用者や家族の意向を受け取りながらかかりつけ医、訪問看護師と家族と職員が協力して終末期介護計画を作成する。	入居時に重度化に関する指針を説明したうえで利用者と家族の希望を伺い、書面の提出をお願いしています。事業所では対応できる範囲であれば、往診医や訪問看護師、職員でチームとして連携を取りつつ家族の協力も得て看取り支援を行っています。今年の10月に訪問看護ステーションを開設したことにより、緊急時等は訪問看護ステーションの職員も対応してくれるので、家族だけでなく職員の安心に繋がっています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で「事故防止の基本と危機意識」について全職員が学んでいる。誤飲、転倒など色々な急変や事故発生場面を想定し、マニュアル作成と訓練を行いホーム内研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の協力を得て行っている年に2回の避難訓練では、避難方法の実践、消火訓練、通報訓練を実施し、職員と利用者は防災用品の使用方も身につけている。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄をし備蓄場所は地域の方の提供場所を含め数箇所に分散している。備蓄品は定期的に点検を行っている。建物オーナーの所有する井戸により非常時の水の確保ができています。浄水器を使用すれば飲料水としての基準を満たしている。今年度は家庭用発電機を購入した。	年2回の避難訓練では、初動対応や避難方法の確認と併せて消火訓練、通報訓練を近隣の方々の協力を得て実施しています。また、毎年10月には自治会主催の防災訓練にも参加し地域の方や事業所の役割等についても確認しています。備蓄は非常食、カセットコンロ、衛生用品の他、建物のオーナーが所有する井戸は浄水器を使えば飲料水としての基準も満たしているため、生活水の確保もされています。家族会や運営推進会議で話し合いを重ねプロパンガスを電気に変換することができる発電機を購入し、今年の3月に工事も終了しました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常に利用者の人格を尊重した支援を実践できるように努めている。呼称は様付けでお呼びし敬語を使用している。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保を徹底するように話し合っている。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一している。個人情報の保護についてはホーム内研修、外部講習会で学んでいる。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮し、書類の保管は書類保管庫に必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。日々の記録を置いてある書庫にも簡易施錠を設置してある。	法人の理念にも「その人らしい生き方と尊厳を守る」と掲げており、ミーティングや研修でも常に利用者の人格を尊重し、一人ひとりに合わせた支援を徹底するよう話し合い実践に繋げています。個人情報の保護については事業所内研修、外部の講習会で学び、外部研修帰社後に参加者から他の職員にフィードバックして情報を共有しています。記録等個人情報の取り扱いにも十分に配慮し、書類の保管は書類保管庫に必ず施錠をし守秘の徹底に努めています。また、日々の記録を保管している書庫にも簡易施錠を設置し、外部に情報が漏れないように徹底しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い出しでの食材の選定や、今日の献立、入浴の希望、外出時の洋服の選定など日常生活の中で自己決定の機会を設け希望を表出できるように働きかけている。自分の誕生日会での食事の内容を決めたり、家族との電話の希望なども表出できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針である「一人ひとりの息遣い・呼吸に合わせた介護支援」の実践に日々努めている。職員の都合による業務を優先することなく、起床時間や食事の時間、休息、入浴、散歩など、一人ひとりのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合った服を着ていただいている。これまでの習慣を大切に、自宅から持参した化粧品を日常的に使用しておしゃれを楽しむこともできている。月一回、理容師の訪問があり毛染めやパーマなどの希望に沿ったおしゃれを支援している。自己決定を表出することが困難な利用者には、これまでの生活歴や家族からの情報を参考にその人らしい身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にその日の献立を考えて食事作りや片づけを行うことは、利用者の有する力を活かしこれまでの暮らしを継続するためにも大切な支援であると捉え日々実践している。食材の買い出しにも一緒に行き、旬の食材、嗜好品を購入し食事が楽しみなものになるように支援している。自宅から使い慣れた茶碗、湯飲み、箸など持参している。職員も一緒に楽しく食べるようにしており介助する一方ではない。庭で育てた野菜や、地域の畑でとれた旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。	食事のメニューは利用者と職員と一緒に考え、食材の買い出しについては職員と一緒に行くこともあります。利用者の残存能力を生かす為にも準備や片付け、買い出し行くことで、これまでの暮らしを継続出来るように支援しています。旬の食材や嗜好品を取り入れ、彩にも配慮した盛り付けにすることで、食事への関心意欲に繋げ、食事が楽しめるように工夫しています。時には、庭で育てた野菜や地域の畑で収穫された食材も取り入れ食卓に並べています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは、一人ひとりの食べられる量を勘案しながら食材の組み合わせによる栄養バランスを考えている。必要に応じて水分摂取量を記録して1日を通して必要量を確保できるように支援している。カロリー制限や疾病のあるご利用者には、医師や看護師の指示を受け、栄養士の職員から個別にアドバイスを受けている。職員の誰もがカロリー目安を立てられるようにカロリー換算表を作成するなど工夫している。個別の状況を内科医、歯科医師らと共有して、一人ひとりの歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、消化力、活動性など総合的にとらえて食材や食形態を選択し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医による口腔ケアを実施している。職員は歯科医師または歯科衛生士に一人ひとりの口腔状態について説明とアドバイスを受けている。毎食後は習慣に基づいた歯磨きができるように支援をし、利用者によっては職員が磨き残しの確認やフォローを行っている。義歯は毎夕食後に、入れ歯用のつけ置き洗浄剤を使用することで清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄状況、パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの排泄を促すことでオムツの使用量を減らす努力をしている。居室にトイレを設置していることで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立っている。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に自立に向けた支援を行っている。	紙パンツを使用している方はいますが、オムツの使用は極力控え、個々の排泄状況やパターンの把握に努めながらトイレでの排泄を促すように支援しています。また、各居室にもトイレが設置されていることで夜間帯の排泄失敗防止やプライバシーにも配慮されています。以前にトイレで排泄が行えたことが生活全般の活性化に繋がった経緯もあり、自立排泄に向けた支援を心がけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンク、ヨーグルトドリンクを飲むことで便秘の予防に取り組んでいる。また、気分転換と全身運動とを兼ねて散歩に出かけたり体操をして体を動かす工夫をしている。個別の排便パターンを把握したり、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワーなど）や日時を可能な限り考慮し意向を汲んでいる。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用するなどして安全面に配慮することで安心できるようにしている。同性の介助を希望される方にはその要望を汲み取り同性介助を実施し羞恥心に配慮している。バスリフトの導入により湯船の出入り（立ち上がりと沈み）を補助できることで安心してゆっくりと湯船につかことが出来るようになった。	3日に1回の入浴を基本としていますが、可能な限り希望に応じて入浴支援を行っています。入浴に対して恐怖心がある方には滑り止めマットを使用し、安心して入浴できるように配慮やバスリフトを使用して対応しています。季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤等も使用していつもと違った雰囲気を楽しめるように工夫しています。希望により同性介助を行う等の羞恥心に配慮した対応も行っていきます。	今後の継続
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体力や活気などの様子を捉えることで適宜、ひと休みできるように支援している。就寝時間については、本人の生活習慣や体調に合わせた希望の時間に休むことができるようにしている。日光浴や買い物、散歩など日中に適度に体を動かすことで夜間の安眠に繋がられるよう工夫している。更に気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベット周りの環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬は、効能書きを個別にファイルして管理し、職員は薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるように努めている。特に医師の指示で薬が変わった時には家族とも情報を共有し職員間での申し送りを確実にしている。職員は症状の変化の確認に努め、医師や薬剤師に相談できる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や有する力を活かして、家事全般や庭仕事などの役割の支援を行っている。耕作、野菜の収穫、音楽療法、動物の世話（抱く、散歩）などを行っている。また、お花見や各種行事（運動会や演奏会や食事会）は楽しみごと、気分転換になっている。思い出を写真に残し掲示することで後々も思い出すことができ日々の張り合いにつながられている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援に努めている。散歩、戸外で日光浴、職員と食材の買い物、家族の協力のもと昔馴染みの土地への外出や温泉旅行、ドライブ、お墓参りなどに出かけている。家族や地域の人々と相談・協力し合っ、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践している。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出されている（例えば、毎年見に行く桜、藤の花、菖蒲、ディズニーランド、お誕生日の夕食など）	日常的な外出支援では、散歩、戸外での日光浴、職員との買い出し、近くにある銀の鈴2号館で行われる行事の際に行くともあります。家族の協力も得ながら、温泉旅行やドライブ、お墓参り等に出かけている方もいます。また、社会的リハビリの目的も兼ねて、毎年の年間行事で出かけている桜、藤、菖蒲園、バラ園、ディズニーランドへは車椅子の方も一緒に出かけて楽しみを共有できるように心がけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、必要となった品は家族が持参される。（お金を所持することは家族の意向にもよる。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の他に、ご家族にのみ番号を開示している携帯電話を設置し、いつでもご家族からの電話を取り次ぐことができる。また、利用者からの申し出があれば、自由に使用できるよう支援している。絵手紙や年賀状などが届いたらやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える庭は、利用者とともに土を耕すところから行い季節の野菜や花木を育てている。室内にも観葉植物などを常に飾って皆で楽しんでい。また、特注の門松、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。ホーム内の飾りつけは家庭的な雰囲気づくりに努めている。お楽しみ会・お誕生会などの写真が貼ってあることで、思い出の共有と空間認識ができてよいとの意見も外部から頂戴した。共用空間は絶えず清潔を心がけ、利用者とともに毎日掃除を徹底している。更に清掃専門業者に年間2回の清掃を依頼している。温度・換気・湿度の管理に配慮し、居心地よく過ごせる工夫している。	事業所は少し高台の場所にあり、リビングからは山や畑といった四季折々の自然が望め、夏にはみなどみらいの花火が眺めることができます。行事の写真や季節風習を取り入れて飾り、季節感を演出しています。あくまでも家庭の延長というコンセプトで派手な飾りつけ等は行わず、家庭的な雰囲気作りに努めています。共用空間は絶えず清潔を心がけ、利用者と共に毎日清掃を行っています。清掃専門業者に年間2回清掃を依頼しています。温度・換気・湿度の管理に配慮し、居心地よく過ごせる工夫しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で過ごせるようテーブル、椅子の配置を工夫している。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、音楽を聴きたい方それぞれに居場所を確保できるようにしている。音楽療法などサービスに応じて席も自由に移動している。また廊下にもソファを置き、座って語らえるようにあるいは1人でもくつろげるようにしている。2階のベランダや多目的室も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、本人と家族が思い思いに家具の配置やコーディネートを行っており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのもの、大切なものを持参している。居室にラジオ、CDラジカセを持参してのんびりとクラシックやハワイアンなどを聴くことを楽しみにしている利用者もいる。	各居室にはトイレ、エアコン、クローゼットが完備されており、入居時には使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んでいただき、思い思いに過ごせる空間作りができるよう配慮しています。箆笥、テレビ、鏡台、家族写真などを飾り、配置は家族と本人にお任せして、居心地良く過ごせるように配慮しています。清掃は利用者と職員で行っていますが、年2回は清掃業者に依頼して清潔の保持に努めています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの前には表札、家族と本人の思い出の写真を掲示するなど「分かること」を活かす工夫をしている。入浴では浴槽に入る時に、回転シャワーチェアや滑り止めマットを使用して、安全・安楽に入浴できる支援をしている。 杖歩行の利用者には、トレー付シルバーカート（歩行車）の使用により下膳をはじめ家事に積極的に参加できるようになり、安全かつできるだけ「自分のことは自分でしたい」という本人の意向と達成感をかなえるための支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム銀の鈴2号館

作成日

平成28年11月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	法人の設立：グループホームの開設の16年間において、本人と家族が銀の鈴で看取ってほしいとの希望が多々あった。可能な限り努力してきたが、介護現場では希望に添えない現実があった。	本人・家族が銀の鈴で看取りを希望された時は、本人、家族、医師、訪問看護、介護職員などのチームで十分な話し合いをした上で方針を共有し、可能な限り希望を叶えられるように支援する。	H28. 8月に法人で訪問看護ステーションを立ち上げたことで、医師の指示により、より細やかな看護が可能となり、すでに3名（ガン末期老衰）を看取り、家族に感謝された。	既実施 今後も継続
2	31	グループホームの介護現場においては、看護職員との協働が重要であり、健康観察し以上があれば細やかに報告、相談、連絡を取る必要性がある。	日常の健康観察や細やかな報告、相談、連絡により、情報を共有し早めの対応を行い、本人の苦痛の改善、苦痛の原因の排除を目指す	訪問看護の協力により、必要な時に必要な処置をしてもらいながら、医師、本人、家族、介護職員とチーム連携をしている。	一年間
3	35	災害対策においては、電気、水、防寒、食事について、5日間はホーム内で全ての職員に使用方法を周知し、自助努力をする。	災害対策をすることによって、利用者、家族、職員の不安を軽減し、5日間は自助努力で暮らせることを目指す。	職員は皆プロパンガスを電気に変換することを周知して作業できる。また、水は井戸があり浄水器を設置することで飲用水が確保できる。米、調味料などは、十分に確保している。冬用に、防寒グッズ（肩掛け、膝掛け、湯たんぽ、靴下）を準備している。電池やカセットボンベなど必要物品を備蓄している。	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。